

# 第4回 清和台地区学校のあり方を検討する懇話会 議事録

令和7年10月14日（火） 午前10時～

## 【加古川市義務教育学校両荘みらい学園視察など】

### 〔参加者〕

川西市 : 川西市教育長ほか教育委員会事務局職員及び懇話会メンバー

加古川市 : 両荘みらい学園校長及び教頭、開校準備委員会会長

### 〔学校紹介〕

(概要)

#### (1) 統合までの経緯について

- ・ 2つの小学校区の間にある中学校の敷地内へ、義務教育学校を建設することが望ましいとなった。
- ・ 地域としては、130年続く学校を閉校するのは非常に悩まれたが、歴史よりも未来を大事にしたい、という思いで英断された。

#### (2) 9年間を通した教育課程について

- ・ 小学1年生から中学3年生までを3つのステージに分け、教育課程を組んでいる。1stステージは1年生から4年生。2ndステージは5年生から7年生。3rdステージは8年生から9年生。「中一ギャップ」を解消するため、7年生(中1)を2ndステージとした。
- ・ ステージ制にしたことで、平和教育に9か年で取り組めることも良かったと感じている。今までは同じ中学校区内でも2つの小学校が別々の場所で平和学習を行っていたが、統合したことで統一でき、様々な視点から平和について考えられるよう、9年間通した教育課程を組むことが可能になった。

#### (3) 通学について

- ・ 前期課程(小学生)は、近隣児童以外は約9割がスクールバスで通学している。一部、距離の近い家庭も、通学路の安全面からスクールバスを使用している。
- ・ 後期課程(中学生)は、近隣生徒以外は自転車通学。

#### (4) 特色ある教育課程について

- ・ ふるさとみらい科  
各学年で地域と協働し、伝統文化を表現や地域施設の充実に取り組んでいる。
- ・ 英語科  
All English Dayを設定。市内のALTを全員集め、全校生がブースに分かれて英語のみでコミュニケーションをとるという授業を行っている。
- ・ 乗り入れ授業  
後期課程の教員が前期課程へ、前期課程の教員が後期課程へ  
同じ教員が受け持つことで、小⇄中の学習の重複を省くなど、学習内容の軽重をつけたアレンジが可能になった。
- ・ 公民館連携  
公民館講座連携やカルチャーフェスティバルへの参加
- ・ 図書館教育  
図書館のシンボル「みらいにつづく読書樹」を製作。読書体験の充実とともに、教科を横断した学びを行っている。

## 〔質疑応答〕

### 【学校面】

Q.義務教育学校になったことによる人口流入や越境入学はあるか。

▶校区が市街化調整区域で自由に住宅を建てることができない上、特別な事情がある場合には転入を認めているものの校区廃止はされていないため、増加状況ではない。

Q.義務教育学校の教育的効果を実感できるのはどのようなところか。

▶後期課程教員の乗り入れによる専門的な授業の実践

All English Day の取り組み

部活動の先取り体験

ステージ制により、それぞれでリーダー性を育てられる など

Q.児童生徒の日常的な交流や行事はどのような工夫をされているか。

▶自然と子どもが交わるような教室配置

気軽に外で交流できるよう、中庭の土でない場所は上ぐつ OK

委員会活動を5年生～9年生で実施

職員室を1つにし、小中の教員が「交わりやすく、親しみやすく」を意識して運営  
学年やステージの枠を超えた交流を通して絆を深めることを目的とした行事を設定

・新入生歓迎遠足を開催し、1年生～9年生の縦割り班で活動

・前期・後期課程合同で1日開催の行事を実施

・運動会では全校（9か年）合同演技を入れる

Q.統合までに、子どもたちや教職員へどのように話をされてきたか。

▶当時はコロナ禍であったため、該当校同士を休み時間も含め、リモートでつないでいた。コロナ後は、小学校の子どもたちを中学校の校舎に招き、一緒に英語の授業を受けるなど、中学校の雰囲気を感じてもらった。

▶教職員は、統合前の学校に勤務されていた先生と新たに異動された先生とでコミュニケーションを取りながら、横のつながり、縦のつながりを作っていた。

### 【地域面】

Q.統合しなければいけないほど人数が少なかったのか。

▶10年先の児童数を聞いていて、地域としては、10年先の状況になってからでは手遅れになるという思いが強かった。

Q.統合時、地域での動きの中で良かった点、苦労した点はどのようなところか。

▶子どもたちにより良い教育を受けてもらうために、統合に懸けたいという思いがあった。一方で小学生のスクールバスをどうするかということは大きな課題であった。安全、安心を第一に考え、地域や保護者、市との調整に苦労した。

Q.学校施設の一部に公民館機能が入ったことによる地域としての効果はどのようなものか。

▶公民館があることで、学校（子ども）と地域の距離が縮まったと感じている。公民館の学習スペースで放課後や夏休みに勉強する姿もあり、普段の子どもの姿を地域が見られるということも良かったと感じている。また、一般の利用者と子どもたちが一緒に学習する場面が増えた。

Q.小学校の跡地はどのように活用されるのか。

▶一つの小学校は県立の特別支援学校の建設が予定されている。もう一つの小学校は、活用方法を検討している状況。

Q.今後、単学級が増える可能性もあると思うが、どのように考えるか。

▶1学年1学級になることも予想されたが、学校・子どもを通じて地域の活性に繋がりたいということは、開校当時から話していた。義務教育学校になったことで、単学級であっても、小学生と中学生と一緒に学ぶことで、いろいろな価値観に触れることができると考えている。

## 〔今後の予定〕

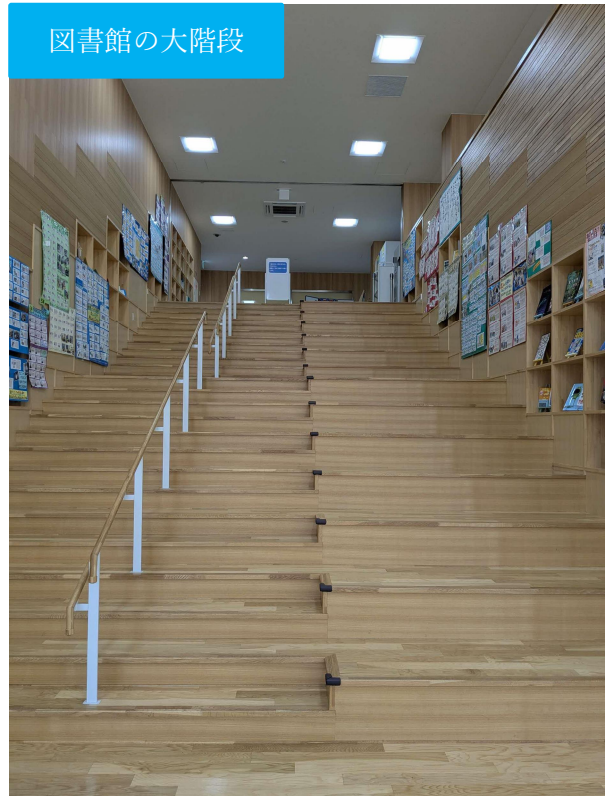
- ・ 10月教育委員定例会で今後の方向性を説明
  - ・ 11月総合教育会議で市長へ報告
  - ・ 12月中旬を目処に地域説明会を開催予定
- ※次回第5回懇話会は、11/12（水）開催予定

## 〔施設見学の様子〕

公民館（中央部）



図書館の大階段



校舎入口（1～4年生）

